

編集後記

新潟県中越沖地震の被災者の方々にお見舞い申し上げます。また、一日も早い復興をお祈りいたします。

先日、私の知人が最高学位の「博士(工学)」を取得しました。今は学位規則が変更され、「工学博士」ではないそうです。少し気になり手元の名刺を調べたところ、最近取得されたはずなのに、「工学博士」を使っている方がいました。さらに、裏面の英語表記も調べてみたところ、面白いことを発見しました。英語表記には、「Dr.Eng.」や「D.Eng.」等の「Dr.Eng.」系と、「Ph.D.」とがありました。必ずしも「工学博士」と「Dr.Eng.」系がペアではなく、「工学博士」で「Ph.D.」、「博士(工学)」で「Dr.Eng.」系というパターンもありました。

ここで、一つ疑問が生じました。「Dr.Eng.」系は「Doctor of Engineering」の略のようですし、「Ph.D.」は「Philosophiae Doctor」(ラテン語)の略で「(医師に対し)学問上の『ドクター』』という意味です。どのような使い分けをしているのでしょうか？そして、ネット検索で見つけたのが、「中央教育審議会大学院部会(第24回)議事録・配付資料」の「学位に関する参考資料：諸外国における学位制度について(上級学位：大学院レベル)」(以下、資料)でした。

この資料によると、日本と同様に教育課程修了後の博士論文審査で取得できる学位は、英国では「Ph.D.」のみで、米国では「学問的学位で『専攻領域における学識と研究能力を有することを証明する最高の学

位」の「Ph.D.」と「職業学位の「D.Ed.」、「D.Eng.」等」の2種類でした。

疑問は、解消されたようです。概ね、「Ph.D.」は「学問的かつ最高の学位」で、「D.Eng.」は「職業学位」のようです。また、その資料には独自の制度も記載されており、「同じ『博士』でも、国によって色々あるんだなあ」と感心し、酷暑と戦っていました。

話は変わりますが、本号の「特集：維持管理・延命」は如何だったでしょうか？担当の2名が新人であり、委員長をはじめ委員会の皆さんに色々なアドバイスをいただき、やっと形になりました。紙面を借りて、感謝申し上げます。

以前、「使い捨て○○」という商品が流行した時期がありましたが、いつしか姿を消し「○○(詰め替え用)」が目に残るようになりました。また、「リサイクル○○」のような再生品、「☆☆(植物)で作った○○」のような自然循環素材が注目されてきています。さらに、地球温暖化対策の排出CO₂削減で「クールビズ」が定着し、「1人1日1kgのCO₂削減」も推進されています。

一方、本号で取り上げた報文の中にも「最適な維持管理」や「構造物の延命化」により「CO₂削減」に貢献でき、「地球温暖化」に対抗できるものも多くあると思います。

また、本号では、大学での研究成果も紹介できました。「学問の秋」に「学問の香」が届いたでしょうか？最後に、御多用にもかかわらず執筆を快諾して頂いた著者の方々に感謝いたします。(小沼・高津)

機関誌編集委員会

編集顧問

浅井新一郎	石川 正夫
今岡 亮司	上東 公民
岡崎 治義	加納研之助
桑垣 悦夫	後藤 勇
佐野 正道	新開 節治
関 克己	高田 邦彦
田中 康之	田中 康順
塚原 重美	寺島 旭
中岡 智信	中島 英輔
橋元 和男	本田 宜史
渡邊 和夫	

編集委員長

中野 正則	国土交通省
-------	-------

編集委員

廣松 新	国土交通省
浜口 信彦	国土交通省
米田 隆一	農林水産省
小沼 健一	(独)鉄道・運輸機構
村東 浩隆	株高速道路総合技術研究所
伊藤 崇法	首都高速道路株
高津 知司	本州四国連絡高速道路株
平子 啓二	(独)水資源機構
松本 敏雄	鹿島建設株
和田 一知	川崎重工業株
岩本雄二郎	株熊谷組
嶋津日出光	コベルコ建機株
金津 守	コマツ
藤永友三郎	清水建設株
村上 誠	新キャタピラー三菱株
宮崎 貴志	株竹中工務店
泉 信也	東亜建設工業株
中山 努	西松建設株
斉藤 徹	株NIPPOコーポレーション
三柳 直毅	日立建機株
岡本 直樹	山崎建設株
大林 正明	株奥村組
石倉 武久	住友建機製造株
京免 継彦	佐藤工業株
久留島匡繕	五洋建設株
庄中 憲	施工技術総合研究所

11月号「情報化・IT技術特集」予告

- ・トータルステーションを用いた出来形管理要領(道路土工)の紹介
- ・トータルステーションを用いた舗装の出来形管理の効率化
- ・UCIS(ケーソン無人化据付けシステム)
- ・3次元レーザーキャナーのトンネル施工管理への適用事例
- ・「コンタクトクレイ吹き付け工法」一着岩材の吹き付け機械化施工について
- ・リアルタイムWebモニタリングシステムによるダム堤体左岸法面の動態監視
- ・RI水分計によるフレッシュコンクリートの単位水量変動の連続測定
- ・携帯電話を使用したコンクリート工事の品質管理
- ・3次元VRシミュレーションを活用した連続立体高架橋の設計・施工
- ・情報化施工支援機器「AccuGrade」の活用事例

No.692「建設の施工企画」 2007年10月号

〔定価〕1部840円(本体800円)
年間購読料9,000円

平成19年10月20日印刷

平成19年10月25日発行(毎月1回25日発行)

編集兼発行人 小野 和日見

印刷所 日本印刷株式会社

発行所 社団法人日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; Fax (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

施工技術総合研究所	〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154	電話 (0545) 35-0212
北海道支店	〒060-0003 札幌市中央区北三条西2-8	電話 (011) 231-4428
東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二丁目16-1	電話 (022) 222-3915
北陸支店	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1	電話 (025) 280-0128
中部支店	〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26	電話 (052) 241-2394
関西支店	〒540-0012 大阪市中央区谷町2-7-4	電話 (06) 6941-8845
中国支店	〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22	電話 (082) 221-6841
四国支店	〒760-0066 高松市福園町3-11-22	電話 (087) 821-8074
九州支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-8-26	電話 (092) 436-3322